

研究主題

自己や他者と豊かに関わり、よりよく生きる児童の育成
～探究的に学び合う道徳科の授業を通して～

取組と成果のポイント

今年度は、児童や教職員が、「道徳科の授業って、楽しい！」と思える探究的な学び合いの工夫を研究し、学校の教育活動全体を通して、自己や他者と豊かに関わり、よりよく生きる児童の育成を目指した。

そこで、教職員の研修を重ね、学級経営の中で相手を大切にする風土の醸成を図るとともに、複数の教員で指導を行う「にじいろ道徳」を実施したほか、振り返り場面における書く活動の工夫を通して、学んだことを生活に生かす取組を行った。その結果、児童が道徳科の授業を楽しみにする姿や、友達の考えを聞いて自分の考えを深めようとする姿が見られるようになった。

研究の概要及び特色



萩っ子の未来が虹色の花で
いっぱいになりますように。

1 中萩小学校が考える「探究的に学び合う」とは

道徳科の時間に自問自答をしたり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりする場面を意図的に設定することで、児童は、主体的に道徳的価値と向き合い、その理解を深めていく。そして、児童自身が、授業の中で得た心の成長につながる種を、日々の教育活動の中で豊かに育てていく。本校では、このような、児童が自己の生き方に関して課題意識をもち、他者と学び合いながら、自ら道徳性を磨いていく姿を「探究的に学び合う」とし、道徳科の授業を中心にその充実を図っている。

2 相手を大切に聴き合う学級経営の充実

「聴く」という行為は、単に学習に必要な能力であるだけでなく、互いによりよい関係を築くための重要な手段である。また、話し手に思いやりの心をもって接したり、相手の話を公平に聴いたりすることを通して、道徳性を身に付けることにもつながると考える。

本校では、ルールとリレーション（関係）のある学級を目指し、児童が、支持的風土の中で聴き合う経験を重ねることを大切にしている。全校体制でよい聴き手を育てるために、「相手におへそをむけて・いいところを見つけて・うなずきながら・えんぴつをおいて・終わりまで口をはさまず」という聴き方の約束を「萩っ子 あいうえお」という合言葉にして、全教職員が共通した指導を行っている。

萩っ子 ききかたのやくそく



あいて

相手におへそをむけて



いいところを見つけて



うなずきながら



えんぴつをおいて



終わりまで口をはさまず

教室掲示に使っている「萩っ子あいうえお」

3 「にじいろ道徳」の実施

本校では、管理職を含む複数の教員で行う道徳科の授業のことを「にじいろ道徳」と名付けている。

管理職との「にじいろ道徳」



管理職がT 1、学級担任がT 2となり、授業を実施した。3年生の授業では、管理職がT 1として範読・発問・板書を、学級担任がT 2として指名・話し合い活動の補助・児童の観察を担当した。

- 成果と課題：T Tによる指導で、児童の教師や友達と対話する時間を多く確保できた一方、対話を通して変容した思いや考えを児童自身が把握する場面を十分に設けることができなかった。

学年ローテーションの「にじいろ道徳」

同じ学年の学級担任でローテーションをして、授業を実施した。学級担任は同じ教材で複数回授業を行うことで、教材や指導法についての研究を深めることができた。児童は、学級担任以外の先生との授業を楽しみ、多様な方法でねらいに迫っていた。

- 成果と課題：教員の授業力向上につながった一方、児童の実態把握に基づく支援の工夫や教材、指導法に関する教員間での共通理解が十分にできなかった。



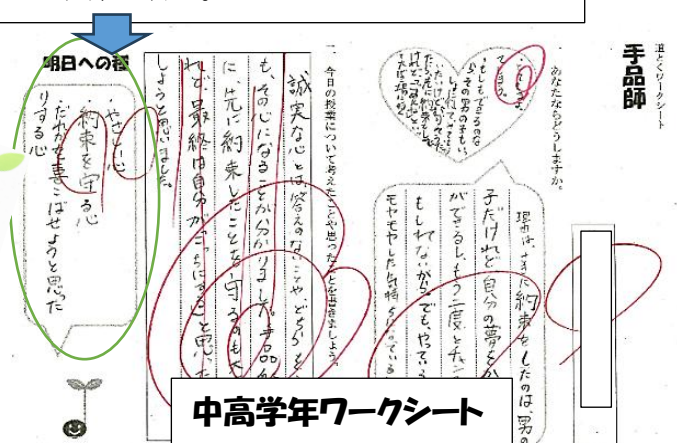
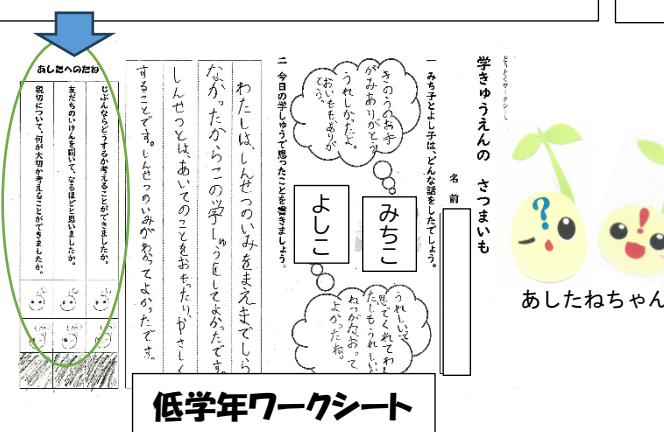
4 振り返り「明日への種」の積み重ね

ワークシートの最後に「明日への種」コーナーを設けている。

「にじいろ道徳」掲示

低学年：本時の授業を児童が「**自分との対話による気づき**」「**友達との関わりからの気づき**」「**道徳的価値に迫れたか**」の三つの視点で振り返り、自己評価をする。

中高学年：本時の授業を児童が「**道徳的価値への気付き**」「**自分への気付き**」「**友達の考えを聞いて自分の考えが変わったこと**」の三つの視点で振り返り、自分へのメッセージや、ねらいに関する自分の考えを短い言葉で書く。



「明日への種」に書いた内容を掲示し、児童が日常的に振り返る中で、自己の成長と課題を見付けられるようにしている。

⇒探究的な学びへとつなげる